

平成 28 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 尼 崎 双 星 高 等 学 校

平成28年度 学校評価

[本年度の重点取組について]

- 1 教育・学習内容や補習等の取組を充実させ、普通科の4年制大学進学率と難関大学合格率の向上を図る。
- 2 教科学習のみならず、生活習慣上の基礎・基本を定着させ、生涯にわたって夢と志を持ち続け、心豊かで、生きがいのある人生を創造していく態度を培う。
- 3 命の尊厳に対する自覚を基に、防災教育・安全教育を強化し、危機管理能力の向上を図る。
- 4 学校評議員会や学校評価を通じた学校教育活動や運営状況の広報・発信に努め、保護者や地域社会との連携を深めることによって、開かれた学校づくりを推進する。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる (1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<p>取組とその成果</p> <p>①英語科と数学科において、「習熟度別授業」を展開し、きめ細かい指導を行っている。 習熟度別授業で、学習状況に応じた授業ができたことで、個々の生徒の進度に応じた授業を展開できた。 英語科では、学期ごとにクラス替えを行い、生徒への意欲付けを行った。</p> <p>②長期休業日や放課後に補習を実施し、学力向上に日々努力している。 夏期補習は1学年で9講座、2学年で11講座、3学年で12講座と生徒の希望に応じて選べる講座を設定することができた。また、希望者も増え、多い授業では100名近い人数が集まった。 1学期末に行った模擬試験の振り返りの授業においても、希望者が殺到し、100名近く集まったため、2日間に分けて行うなど、学力向上に向けた補習が展開できた。</p> <p>③校内における「公開授業」を実施し、教科内及び各教科間の交流や研修を推進することによって「わかりやすい授業」の展開を目指している。 公開授業期間を設定し、交流の呼びかけを実施した。</p> <p>④生徒のニーズや授業展開にあった書籍の充実にも、「図書館だより」を定期的に発行し、新着図書案内などの情報を発信することによって、読書活動の啓発・促進及び学習支援を図っている。 複数の教科の授業で、図書館および書籍が活用され、生徒の主体的な学習活動に貢献できた。 また、授業での利用が個人での利用につながった。</p> <p>⑤「青少年読書感想文コンクール」に応募している。 3点の読書感想文を応募し、うち1点が阪神支部課題図書部門で佳作に入賞した。 また、応募作品を図書館報「afto」に掲載し、次年度に向けての意欲を喚起した。</p>		3.2	3.5
<p>課題と改善策</p> <p>参加希望者が多くなったため、教室の確保が難しく、大人数で補習を受けることになってしまった。 学校として系統立った日常補習の体制を確立していく必要がある。</p> <p>研究授業等の取り組みをし、充実した授業展開を目指していく。</p> <p>自主学習室としての図書館利用者の増加に伴い、期間を決めて開館時間の延長を実施したが、延長を常態化するには限界がある。</p>			
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る (1) 道徳育成の取組を促進し、思いやりや満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<p>取組とその成果</p> <p>①生徒の自主的な進路選択を適切にサポートするとともに生徒それぞれの能力を伸ばさせ、将来の生活に活かせるよう指導している。 生徒が自主的・主体的に進路選択できるよう、適切なタイミングで各学年と協力し、生徒の実態に合わせた進路指導を行った。</p> <p>②各自の進路希望に合わせたガイダンス(説明会)や個人面談を実施し、進路に関する意識を高めている。 各学年とも適切な時期に、生徒の進路希望に合わせ説明会を行い、進路に関する意識を高めた。 また3年生には進学・就職希望者全員と個人面談を行い、「なりたい自分・就きたい職業」を発見し、「今何を考え何をすべきか」を自らの力で考えられるよう指導した。</p> <p>③外部講師の招聘や校外での研修会への参加を通じて、就職及び進学への意欲向上を図っている。 各学年で進路希望別に分け、大学や企業への見学会や就職希望者に対して専門家による面接指導を実施した。</p> <p>④「基礎学力テスト」及び「全国模試」を定期的に実施、学習到達度を確認させるとともに進学希望者にきめ細かい指導を行っている。 4月と9月の「基礎学力テスト」と、1年生3回・2年生4回・3年生6回の「全国模試」を実施し、生徒の学力の定点観測支援や判明した弱点の補強を生徒に促す自立学習支援に努めた。</p> <p>⑤遅刻者に対する毎朝の別室指導や遅刻多数生徒の生活改善を促すため、「早朝登校指導」を行っている。 上記の指導により、遅刻者数は減少傾向にある。</p> <p>⑥全校集会や外部より招請した講師による講話、及び全校生徒の意識を高めるための呼びかけプリントの配布などを通して、常に生徒の心への働きかけを行い、道徳性の育成に努める。 全教職員が色々な時間に、様々な形で生徒の心への働きかけに取り組んでおり、その成果が外部からの苦情が減少し、謝礼などの連絡の増加が感じられる。</p> <p>⑦文化的教養を高め、豊かな情操と想像力を育成する「芸術鑑賞会」の来年度からの実施に向け準備を進める。 来年度の実施日時と演目を決定した。</p> <p>⑧本校の人権教育方針に従って、昨年度から行っている人権教育読書、人権教育講座に加えて、今年度は人権教育新聞の発行も実施していく。 人権教育読書・人権教育講座・人権教育新聞発行はそれぞれ実施できた。</p> <p>⑨資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努めている。 電気情報科においては、各種検定合格や資格取得によって、兵庫県高校教育研究会工業部会より工業技術顕彰制度の表彰対象となるため、生徒に意欲的にチャレンジして行く風潮が生まれ、学習活動や進路選択に良い影響を与えた。卒業生の8割が表彰された。 商業学科においては、生徒の進路希望が多様化しており、四年制大学への進学希望が増加している。 また、商業の資格を生かした大学入試の制度もあり、就職・進学どちらにでも対応できるよう資格取得に力を入れた。その結果として、希望大学や就職に対応できた。</p> <p>⑩最先端の技術を研究されている講師を招いて、特別授業を行い、生徒の個性を活かした生きる力を育むとともに、生徒の多様なニーズに対応している。 電気情報科において、電気・電子・情報・通信の基礎的な学習について、最先端の技術を研究されている講師を招いて、特別授業を行い、自ら主体的に学ぶ機会を提供することができた。</p> <p>⑪高大連携授業を行い、学問の面白さにふれ、学ぶことの楽しさを感じさせ、学習意欲の向上を図っている。 普通科において、関西大学の模擬授業、関西大学の学生による講演会、関西学院大学の体験、関西大学の体験と本校に来てもらう授業を2回、大学を訪れる機会を2回作ることであった。その中で生徒の学習意欲の向上や他大学への興味関心などが生まれた。</p> <p>⑫地元企業や大学の協力を得て、インターンシップを行い、自分の将来をじっくりと考える意識を高めている。 ものづくり機械科2年生が、地元企業16社の実際の現場を肌で感じることで、非常に有意義な活動ができた。自分の将来について、より具体的に考えることができ、意欲の向上にもつながった。 電気情報科において、将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎的・基本的な知識や技術を確実に習得するために、インターンシップ事業を実施し、学習内容の充実を図ることができた。</p>		3.4	3.5
<p>課題と改善策</p> <p>生徒たちの進路希望が難関大学を希望する生徒から就職を強く希望する生徒まで多様かつ複雑で、それぞれに応じた内容を検討し力をつける難しさがある。生徒一人ひとりと向き合う時間を確保し、親身になって相談に応じ、生徒が納得する進路を獲得するまで時間をかけて指導する必要がある。</p> <p>内発的な動機付けを行うために、各学年と連携して指導してきたが、生徒たちが「自ら考え」「自ら行い」「自ら責任を持つ」までには至っておらず、教職員の生徒とのかかわり方や進路指導体制を再度見直す必要がある。</p> <p>生徒たちは事前・事後指導を含め、進路行事を行うごとに成長が見られるが、進学・就職ともにスタート時期が遅く、必ずしも目標の進路を掴んでいるとは限らない。</p> <p>入試制度の多様化・複雑化による入試動向をさらに分析し、学力向上に向けた生徒の主体的な学習を指導する必要がある。 成績データの分析活用方法を研究し、生徒・保護者・教職員にフィードバックしていく必要がある。</p> <p>毎年冬季の遅刻者数が増加することが課題である。</p> <p>電気情報科においては、実技を伴う国家資格を受験しているため、教員の技術水準の維持と資質向上のための研鑽時間と機会の確保が必要である。教員が高齢化しているため、技術の伝承を確実に行う必要がある。教室等が手狭で、安全対策に関する施設設備の拡充が望まれる。資格取得は、工業教育の質の向上を目指す手段であるばかりでなく、学科の活性化につながる取り組みであるが、資格取得に固執する指導ではなく、生徒にどのような力を身につけさせるかを明確にし、生徒が職業に対する自己の適性を理解し、主体的な進路選択能力を身につけさせることを念頭に置く必要がある。</p> <p>職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学んでいく上で必要となる学力や、それぞれの職業分野での基盤を確実に身につけさせることが必要であり、産業構造の変化や技術革新に柔軟に対応できる人材を育成する必要がある。</p> <p>生徒に応じた授業をしてもらうためには、頻繁に打ち合わせをする必要がある。そのため、普通科イベントとしては1年間に来てもらう授業を2回、訪問する機会を2回が限度である。 複数の大学を体験できるイベントを作るために、他の部署との連携が必要だと考えられる。</p> <p>電気情報科においては、大学との連携は比較的スムーズであるが、生徒が行ってみたい企業との連携接続がうまくいっていない。 官学産のスムーズな連携体制を確立するため、関係各庁の指導・支援を期待する。</p>			

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		3.0	3.0
取組とその成果		課題と改善策	
①3学期に実施する「マラソン大会」に向けて、年明けからの体育の授業で持久走に取り組む。 ⇒1月から6～7回にわたり、体育の授業で持久走に取り組んだ。毎時間記録をとり、その推移を見ていくことで、生徒自身が体力の向上を実感できた。		⇒成果を試す「マラソン大会」の予定が1日だったこともあり、雨天中止となってしまうことが今後の課題である。	
②「ほげんだより」の発行により、食育や健康な体づくりに啓発する活動を行い、心身とも良好な状態を維持し、健康的な日常生活が送れるように配慮している。 ⇒毎月発行し、健康な体づくりの取り組みを推進することができた。また、保健室の来室者に対して、食生活を含めた生活習慣の改善について指導している。			

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		3.0	3.0
取組とその成果		課題と改善策	
①校外の教カ所において、生徒指導部の教員を中心に「自転車安全運転指導」を行っている。 また雨天時の「傘差し運転」の禁止運動も校門を中心におこなっている。 ⇒生徒会が「自転車安全運転の呼びかけ活動」を自主的に始めた。また、学校に苦情などがあつた時や、生徒の安全上必要な事案がある場合、周知のためのプリントを全校生徒に配布するよう務めた結果、生徒が自らの行動を改善する意識を持つようになった。			
②「AED」及び「救命救急法」の講習会、「避難訓練」などを実施し、教職員及び生徒の防災意識のさらなる向上を目指している。 ⇒7月13・14日に「普通救命講習会」を実施した。北消防署園田分署から署員約20名に来て頂き、専門学科と普通科に分かれて講習してもらい、参加者に「普通救命講習修了証」が交付された。 12月に北消防署園田分署の協力を得て、地震による火災を想定した「避難訓練」を実施した。 避難経路の確認や消火訓練、署員の講話などを行い、防災意識の向上を図ることができた。		⇒普通救命講習会については、教職員にも参加を促進するような機会を作っていく。 避難訓練の実施は、年度が始まってできるだけ早期に実施することが望ましい。	
③安全な学校づくりのために安全点検を行い、危険箇所の早期発見に努めている。 ⇒4月、9月、1月に校内の施設・設備の安全点検を行い、危険箇所の早期発見と改善に努めることができた。			
④実習授業前に必ず集合し、服装や体調の確認を行い、安全に対する注意喚起に努めている。		⇒加工後の金属材料を取り扱う際、ハリ等によりキズを負うケースがあつた。さらなる注意喚起に努めていきたい。	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る		3.4	3.5
取組とその成果		課題と改善策	
①生徒指導の充実を図るため、「生徒指導委員会」や「職員会議」において教師間の意思疎通を適切に行うなかで、現在の生徒指導の問題点や現状に合致した規定の改定の協議を進めている。 ⇒家庭・地域・学校の連携のもと、会議や様々な場面で協議を通して、日々変化する生徒指導上の問題点の把握に努め、現状に合致した規則や規定の改定を適切に行うことができた。			
②夏季休業中(特に7月下旬)に「三者面談」を実施、学習、進路、日常生活の情報交換を密に行い、保護者との連携を深めている。 ⇒特に進路に関しての情報交換を行うことができた。夏季休業中以外にも必要に応じて三者面談を実施し、情報交換を行っている。定期的に学年通信を発行し、学校での取り組み、学校生活の様子、行事予定などを周知している。			
③「保護者会」を開催し、おもに進路指導を中心に保護者との連携を図っている。 ⇒1・2年生の保護者に対して10月に進路保護者会を開催し、「卒業生の進路状況」や「就職・進学事情の今と昔」・「進学にかかる費用」・「高校生とのかかわり方」・「保護者として今できること」など具体的な事例をあげながら話をした。「我が家にも当てはまることが多く参考になった」や「早速、今日からできることをやってみます」など保護者と学校が信頼関係を築くことができた。		⇒参加者が全体の約4割であることから、保護者との協力体制を高めるためには別の方法を考える必要がある。	
④中学生及びその保護者対象に「学校説明会」及び体験授業を中心とする「オープンハイスクール」を年間計5回開催し、本校の教育方針(内容)や施設見学を通して、本校の魅力をアピールしている。 ⇒学校説明会及びオープンハイスクールを計5回実施し、多くの中学生・保護者に参加してもらえ、本校を知ってもらう良い機会となった。			
⑤「学校保健委員会」を開催し、保護者や学校医にも参加してもらい、家庭や地域との連携した学校保健活動を展開している。 ⇒毎月の学校保健委員会を開催することで、学年との情報交換に役立て、早期に問題が解決する手がかかりとなっている。年1回拡大学校保健委員会を開催し、保護者や学校医にも参加してもらい、家庭や地域との連携をはかることができた。			
⑥ホームページの更新を頻繁に行い、本校を知ってもらうための情報発信に努める。 ⇒ホームページの更新をこまめに行い、校内の様子や本校に関する最新の情報を掲載するなどして、本校を幅広く知ってもらうための情報発信をすることができた。			

教育目標		本校の教育目標	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		①広い視野と創造性をもつこころ豊かな人間を育てる。 ②高い志をもち、主体的に生きる人間を育てる。	3.0	3.0
取組とその成果		課題と改善策		
①生徒指導の充実を目指して、「生徒指導委員会」において、教師間の意思疎通を図り、教師が「一枚岩」となって生徒に対応する。 ⇒会議や様々な場面で教師間の意思疎通をはかり、教職員全体で生徒に対応するという目標は、現時点ではある程度達成できているように感じるが、常に現状に満足せず今後とも努力を続ける必要がある。				
②「教育課程編成委員会」において、現行の教育課程や教科指導の具体的な内容を検討し、教育目標の達成に取り組む。また、将来予定されている「学習指導要領」の改訂及び「新テスト」の導入に備えてその研修を推進する。 ⇒教育課程編成委員会において、現行の教育課程でのシラバスの提出を依頼し、教育目標の達成に取り組んだ。		⇒今後は、新教育課程の編成に取り組んでいきたい。		

研究テーマ		教育研究テーマ	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		①障害者差別解消法および合理的配慮について、職員間での共通理解を図る。 ②身に付けた知識・技能を活用して課題を解決する能力を育み、主体的に学ぶ態度の育成を図る。	3.1	3.0
取組とその成果		課題と改善策		
①人権教育充実のため、教職員向けの人権教育研修会を実施する。 ⇒ワークショップ形式で、人権教育の問題点等を考える内容の研修会を実施した。参加型の研修会で、授業にも活用できて有意義だと感想が多かった。				
②各委員会、各教科等で学習指導や生徒指導のあり方について、(必要であれば、外部講師を招聘し)「研修会」を企画する。 ⇒外部で実施される研修会を教育課程編成委員会で案内した。 ⇒LGBTについて「ほげんだより」で3回シリーズで取り組み、学年の人権学習にも使ってもらうことができた。 ⇒10月に教職員対象の「カウンセリングマインド研修会」を実施した。 ⇒進路指導について模擬試験結果の活用を向上させるため、外部業者に依頼し教員向けの研修会を行った。「近年の状況」や「本校の現状分析」、「学校間比較」などデータに基づく話を聞くことができた。 また、他校の取り組みの中で本校でも実践できそうなものが多数あることに気づかされた。		⇒本校では組織作りが一番の課題であることが顕著になった。		

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる (1)習熟度別授業・夏季休業中の補習については、教員の人数・教室の確保等課題はあるが、継続してほしい。 (2)公開授業については、各教科が参加した交流会の実施、更に研究授業の実施を見据えた形で継続してほしい。 (3)専門学科(職業学科)での教育・学習内容について、もう少し詳しく取組内容等を知りたかった。 (4)進学希望者も何年後には社会へ出て行くので、教科学習は勿論のこと、特に協調性(チームワーク)やコミュニケーション能力を養う教育を今まで以上に取り入れてほしい。	3.3
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る (1)道徳教育の促進、基本的な生活習慣確立のための取り組み等を促進し、キャリア教育を充実させ、生徒の心身共に健全な育成・社会的自立に必要な能力の育成を図ってほしい。 (2)高大連携授業については、可能な範囲で連携大学数の増加を図ってほしい。 (3)他校に比べ、積極的に校外研修や校外活動を実施されている。 (4)先生方にもっと地元企業や関係行政・団体との繋がりを持って頂き、様々な場所で情報交換や企業見学等に参加頂いて、更なる生徒への情報ツールを開発すべき。	3.5
3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む (1)食育教育や体力作りは、生徒の心身共に健全な育成に繋がると思われるので、その充実をお願いしたい。 (2)進学・就職いずれにしても、食育・体づくりは最も重要なことだと思います。特にしっかりと朝食を摂ることを高校生の中に習慣づけてほしい。	3.3
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1)安全教育・防災教育促進の取り組みを継続していただきたい。 (2)自転車安全運転指導の継続をお願いしたい。 (3)最近では自転車による交通事故をよく耳にします。安全運転指導をされているようですが、近隣住民(自転車マナー・ルール違反等の苦情)のことも含めて引き続き徹底していただきたい。	3.3
5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1)教職員の資質向上の取り組みを促進する。 (2)生徒の心身共に健全な育成教育の促進をはかる。 (3)家庭との連携を深め、家庭・地域等から信頼される学校づくりを目指してほしい。 (4)どのようなときでも、オープンな学校として取り組んでほしい。	3.3
■本校の目指すべき教育についてご意見をお聞かせください (1)キャリア教育の充実をはかる。 (2)生徒の心身共に健全な育成教育の促進をはかる。 (3)就職・進学実績の更なる向上を目指す。 (4)家庭・地域・学校との連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校づくりを目指す。 (5)公開授業をよりオープンに数多く実施するとともに、授業改善をより推進してもらいたい。	3
■普通科と専門学科、それぞれの教育の進むべき方向性についてのご意見をお聞かせください (1)両学科ともキャリア教育を踏まえた上で、普通科は更なる進学実績向上を目指してほしい。 (2)専門学科の就職については実績があるが、進学についても更なる向上を目指してほしい(例:県神戸商業・姫路商業・姫路工業・西脇工業)。 (3)最近では進学を重要視される高校が多く、専門学科(職業学科)の高校が少なくなってきました。企業としては高卒者の採用も貴重な人材として考えており、引き続き現状以上の形で専門学科の存続を考えていただきたい。	3
■本校が求められている地域との連携のありかたについてのご意見をお聞かせください (1)出来れば多くの地域行事に参加してほしい。また、その際には、要請があれば許容できる範囲内でよいのでクラブ員の参加(例:吹奏楽部・書道部等)も奨励してほしい(従来から実施していることだと思う)。 (2)学校教育活動についての広報・発信に、より一層の努力を望む。 (3)オープンハイスクール時の様子を見ることが出来なかったのが残念です。	3
評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B